

# 「政権プロデューサー」

あと20日

安倍晋三官房長官、福田康夫元官房長官に、支持でも話題性でも水をあけられた感のある麻生太郎外相。麻生サポーターたちの主任務は、立候補に必要な二十人の推薦人集めだ。四百三十人いる党所属国会議員の二十分の一を集めるのは簡単そうにみえるが、大勢が勝ち馬に乗ろうと模様眺めを決め込んでいる今、同志を増やすのは容易でない。

# 推薦人の確保へ「全方位外交」

## 麻生サポーター



松本純氏

会長)。集まった九十四人の中に、松本純国対副委員長(五選)の姿があった。旧河野派の松本氏が議連に加わったのを見て、ある出席者は「これで、麻生氏は出馬できない」と思った。

麻生氏は旧河野派所属。

回派は十一人だが、麻生氏本人は推薦人になれないし、回派からは河野太郎法務副大臣も総裁選出馬をうかがう。さらに、松本氏が安倍氏支援となれば、とても二十人は集まらない、という読みだ。



精力的に講演して回る麻生太郎外相—9日、都内で

しかし、実際の松本氏の思いは違つた。「麻生応援勝手連団長」を名乗り、鈴木恒夫同派事務総長らとともに、二年半以上前から麻生政権誕生に走り回っている。松本氏は、安倍氏とも親しく、「まず麻生総裁、しかし、実際の松本氏が、なぜ議連に加わつたのか。公式の理手連団長」を名乗り、鈴木恒夫同派事務総長らとともに、二年半以上前から麻生政権誕生に走り回っている。松本氏は、安倍氏とも親しく、「まず麻生総裁、

次は安倍総裁」と公言してはばからない。安倍サポーターたちと対立するより、今は良好な関係を維持する「全方位外交」を取るのが麻生氏にとっても得策だと思つているようだ。

「全方位外交」は、危機感の裏返しでもある。麻生氏は前々回、二〇〇一年の総裁選に出馬。つまな、これまでもあまり関係のなかつた議員にも支援の輪が広がり始めた。

総裁選の告示まで、あと七十日余り。全方位外交が実を結び、麻生氏は二十人のハードルを楽々と越えられるか。

松本氏は「二年半も麻生首相に向けてやってきた。度のペースで、麻生氏と、種はまいてきている」と、他派や無派閥議員との会合の仲介をしている。麻生氏語る。